

## (注)

(注1) 『教育事典』(小学館 昭和41年)

18 Pによる。

(注2) 『生と再生——イニシエーションの

宗教的意義——』(東京大学出版会 1971年)の4 Pに次のような記述がある。「イニシエーションという語のいちばんひろい意味は、一個の儀礼と口頭教育(oral teachings)群をあらわすが、その目的は、加入させる人間の宗教的・社会的地位を決定的に変更する

ことである。哲学的に言うなら、イニシエーションは実存条件の根本的変革というにひとしい。修練者(novice)はイニシエーションを受ける以前に持っていたものとまったくちがったものを授けられる、きびしい試練をのり越えて、まったく「別人」となる。」

以上のことから一般教育をひとつのイニシエーションと位置づける人間として別人となる機会と把えることができるであろう。

## 忘れ得ぬ講義

「諸君は、専門家になる訳ではない。したがって、細かな事は教えない。私は、自分自身が半生を費した研究の大綱を述べることにしたい。」

大学時代に、私が最も感銘を受けた牧角先生の講義は、こんな挨拶から始まった。

当時、九州大学法学部では、四年生を対象とする法医学の講義が開設されていた。この講義を担当された教官が、九州大学医学部教授の牧角先生であった。この科目は履修が強制されておらず、受講は学生の自由意志に委ねられていた。四年生は、ほぼ全員が前期までに卒業に必要な単位を修得しており、後期には、ほとんど大学に姿を見せなかった。

ところが、牧角先生の講義だけは例外であった。回を重ねる毎に受講生が増え、最後は席に座れない者まで出たのである。大

講義室は、四年生で埋め尽くされた。

なぜ、牧角先生の講義が、学生を魅了したのであろうか。先生の講義の内容を紹介しつつ、その理由を考えてみたい。

先生の講義は、スライド写真の映写が中心であった。様々な事件で亡くなった方々の死体の解剖写真を上映し、解説を加えるというスタイルであった。

スライドによる講義は、法学部の学生にとっては初めての体験であり、しかも、その内容は、交通事故から自殺に至るまでの死体のオンパレードである。これだけでも学生の関心を引きつけるには十分であった。

ところが、先生の講義は、私たちの単なる好奇心を満たすだけのものではなかった。先生は、私たちに科学的な思考をする訓練をして下さったのである。

先生は、毎回、レポートの提出を受講者に義務付けられた。講義の終了間際に上映されたスライド写真を素材として、死の原因と形態をまとめるのである。私たちは、死体が発見された状況の説明を聞きながら、探偵になったような気持ちで現場写真を見つめた。そして、A4版のレポート用紙に、死因は何か、自殺か他殺か事故死かを述べ、そのような判断を下した理由を書くのである。

すると、先生は、私たちのレポートを毎回丁寧に講評して下さいだったのである。優秀なレポートを紹介するとともに、悪文の典型のようなレポートや誤字・脱字まで、スライドで上映された。

教官が、教室で一方向的に話すという講義に慣れていた私たちにとって、このような応答のある講義は新鮮であった。自分の書いたレポートが、どのような評価を受けるかに胸をわくわくさせながら、熱心に講義を受けたものである。

今にして思えば、三百人近い学生のレポートを毎回読まれることは、大変な御苦労があったのではないかとと思われる。しかし、先生の御努力のおかげで、私たち受講生は、講義を受ける楽しさを満喫したのである。

「発心真実ならざれば正境に縁すれば功德なお多し」という言葉があるが、先生の講義は、この言葉がぴったりと当てはまるのではなからうか。先生は、死体の写真を見たいという好奇心から受講した学生に対して、文章の書き方から科学的な思考まで教えて下さったのである。

今年の十月から、一般教育の講義を担当する私にとっては、牧角先生の講義のスタイルは、お手本であり理想でもある。学生の知的関心を引き起こし、学ぶ楽しさ、考える喜びを伝えられる講義をとの思いを胸に秘めつつ、講義の準備に追われる今日この頃である。

## 心理学のイメージ

有馬道久

心理学の講義を初めて受ける時、学生諸君はどんな内容を予想し、そして期待しているのだろうか。

こんなことを考えていて、ふと自分自身の入学の時を思い出した。4月初めのオリエンテーションの時だったか、ある先生が、心理学の専攻動機を話すよう言われた。学生番号順ということで最初に指名された私は、正直なところ心理学にどんな領域があ

るのかほとんど知らなかったし、具体的な動機などないに等しかったので、あわてて受験科目が合っていたのでと的はずれな答をして失笑をかってしまった。その後の人はというと、フロイトの著作を読んで、人間の無意識について興味を持ったのでとか、福祉関係の仕事に就きたいからなどと、それらしい答えをしている人もいる。学生番号がもっと後であれば、少しは気のきい